

＜北海道熊研究会 会報＞ 第73号 2017年 6月 30日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の1～72号はWebsiteに「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

＜第7報＞

ルシャ川・テッパンベツ川 両河口域での 3カ年間(2013年、2014年、2015年)の熊
U.arctos に関する調査報告 門崎 允昭・稗田 一俊・PETER NICHOLS

＜熊同士の対応として、次の知見を得た＞

- ① 6月時点の(4ヶ月令)の子を連れた母子は、他個体との距離間隔を離す。
- ② 9月 時点の(7ヶ月令)の子を連れた母子は、他個体との距離が近間になることがある。特に両母子に同年齢の子が居る場合には、子が相手の子に関心を持ち近づく場合があり、最近でその間隔が10mほどになった場合を実見したが、両親は怒らず、しばらくして、互いに子を連れて離れて行った(熊同士、母親同士トラブルを避けているなどの感があった)。
- ③ 単独個体の大物が、当該地(近辺や一時的に川辺など)に現れても、母子の生活を阻害せずに、単独個体の方から立ち去る場合が多く見られた。
- ④ 熊同士意志の疏通を図っている。例えば、母親が子をおいて、単独でその熊に、徐々に数mまで近づき、しばし、単独個体の方を見やり戻って来る。すると、単独個体の熊は、母子の行動を阻害せずに、立ち去るのを、幾度か実見した。互いに意志疏通し合っている事が看取された。
- ⑤ 熊同士の遭遇やトラブルを避ける方法を経験的に子熊に伝授する。

＜当該地での人への熊の対応は、次の6型が観察された＞

- ① 熊は人に遭遇しないように、注意しながら、気を使って行動している。
- ② 人が来たら、出会わないように、他所に移動する。ゆっくり離れて行く場合と急いで走り去る場合とがある。
- ③ 人が来たら、その場で、しばらく、人の様子をうかがう(観察する)。この際、立ち上がることもある(視線を高くし、よく観察するためである)。
- ④ 少し近づいて来る事もある→そして、立ち止まり、人の様子を窺う。なかなか、離れていかない場合もある。母子の場合、人や車に近づいて来ることもある。これは、子熊に人や車を教える為と、私は解している。
- ⑤ 前記③④の後、離れていく、この場合、瞬時に身をひるがえす場合と、ゆっくり離れて行く場合とがある。
- ⑥ 人と熊の距離が10数m離れていれば、熊は平気でその場に居て、その場から離れようとしないことがある。

<個体により、個性がある。顔相・対応の仕方>

・ 熊同士あるいは人と熊の、両者の間隔が30m離れていれば、熊は先ず焦った様子を見せない。50m離れていれば、熊は己の行動（採食、水飲み、魚の捕獲、木での背擦り、子同志の遊び、など）を続ける。30m以内の場合は、不快感・焦り・を示す（顔相に表れる、歯を鳴らす、口を鳴らす）。

・ 熊は人の心を読み見透かし、そして記憶する

・ 熊に己が見つけられる前に、熊を先に見つけるような前進の仕方がまず必要である。

熊に出合った場合には、ホイホイホイと発声し、熊に己の存在を知らせる事。

そして、熊に話しかけること。熊を睨む必要も無い。話しかければ、当然熊の眼を見ること（表情を見る事）になる。

<大瀬初三郎氏(1936年生)の熊への対応>

氏に熊に対する対応を、聴取した結果、次の通りであった。

① 銃殺を1989年に止めて、数年経てから(1995年頃から)、人や車を熊があまり気にせず、番屋付近にまで、熊が普通に出て来るようになった。

② そこで、熊が使ってもよい場所と否場所を教える事を試みた。その方法は、出て来ている熊に対し、人が居る場所や道路を人や車が通る場合には、その場から、立ち去る事を、単純な言葉で、大声で熊を叱り、その場から立ち去るようにさせた。

その結果、熊ともトラブルも無く、以後全く、熊が居ることに関し、不便は感じていない。

③ 番屋に寄り付く熊が居る場合は、一時的に電気柵を張り、トラブルを予防する事にした。番屋の人間にも、外での作業で、熊を怖がる者が居たが、熊が居る状態の経験を踏むと、恐怖心が解消する。要は、人と熊が使う場所を区別する事、これを、熊に教える事が基本である。

<熊を諭す時の実際>

① 熊が居ても良い場所と否場所を、叱り付けるように(熊より人が強いことを声で強調しながら)、言葉で教える。

② 「ここに居たらだめだ、向こうに行け」等、短い言葉で話し聞かせる。時には、大声で諭すか、怒鳴り叱りつける。

③ 家に寄って、離れない熊に対し、1m程のロープを、振りかざして脅した事がある。それで、その熊は退散した。

<その結果>

以後全く、熊ともトラブルも無く、熊が居ることに関し、不便を感じていないと言う。

19号番屋では人とヒグマの共存共栄が成り立っている。

(丁)